

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都センター	階数	地上2F
建設地	京都府長岡京市友岡1丁目-2-1	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用、準防火地域	平均居住人員	100人
気候区分	地域区分Ⅲ	年間使用時間	1,800時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年3月 予定	評価の実施日	2010年12月1日
敷地面積	22,517 m ²	作成者	東條 和彦
建築面積	1,579 m ²	確認日	2010年12月10日
延床面積	2,487 m ²	確認者	神先 誠司



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	121%
③上記+②以外の	121%
④上記+	121%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.6

3 設計上の配慮事項		
総合 等施設は住宅地の中に位置する施設であるため、近隣との調和を計ることが最も重要であると考えている。実習時に発生する騒音、振動等に対する近隣への配慮等を十分配慮した施設づくりを行った。また、施設内においてもリフレッシュベースの設置やゆとりのある空間造りに努め、日常的にストレスを感じさせない施設とした。	その他 特になし	
Q1 室内環境 複層ガラスの採用、各室間における遮音対応(RC造)など、音環境において十分な配慮を行った	Q2 サービス性能 機能的でゆとりのある階高さ、天井高さを確保し心理的ストレスの排除に努めるとともに、リフレッシュコーナーを設け快適な施設づくりを行った。また、鉄筋コンクリート造とし、構造躯体の超寿命化に配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 建物外観は隣地側を低層構造とし、近隣に対する威圧感などを与えない配慮を行った。また、敷地内においては平面緑化を積極的に行い敷地内環境の向上に努めた。
LR1 エネルギー トップライトを設け、自然光の採取を積極的に行った。	LR2 資源・マテリアル 内外装材および電設用ケーブルなど、エコマーク取得材料を積極的に採用した。	LR3 敷地外環境 建物配置は隣地から適切な距離を確保すると共に隣地側を低層構造にすることで日影の影響が出ないよう配慮した。また、複層ガラスを採用することで実習時に発生する騒音を外部に漏らさないなどの周辺環境への配慮を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される